

清流 ニュース

発行所
八王子市子安町 1-22-25
清流寺
清流ニュース編集室
電話 (042) 646-0287 (代)
FAX (042) 644-1164
http://seiryuji.jp.org/

平成二十七年 度 総 祈 願
本 年 度 教 化 誓 願 達 成
佛 立 開 導 日 扇 聖 人 二 生 誕 二 百 年 慶 讚
佛 立 開 導 日 扇 聖 人 三 十 三 回 御 諱 報 恩 御 奉 公 成 就 之 御 願
農 尊 三 十 三 回 御 諱 報 恩 御 奉 公 成 就
役 中 後 継 者 養 成 法 灯 相 続 促 進

七月の御総講日

一日 十時 御修行日
七日 十時 パースデー総講
十三日 九時半 日序上人報恩祈念
廿五日 九時半 高祖御命日
廿五日 九時半 門祖御命日
十二日 十時 於 清流寺
廿四日 十時 高祖御速夜
三十日 十時 門祖御速夜
於 羽村別院

特別行事

廿六日 午前十時半
佛立開導日扇聖人御正当会
奉修導師 亀井日魁上人
晴天祈願 (夏期参詣に併修)
十二日 廿五日
第一座 六時〜八時
第二座 九時半〜十時半
会議
一日 御総講後 役中会議
十七日 朝参詣後 教区長会議
十九日 午後二時 参事会

7月26日(日)
10時30分

佛立開導日扇聖人御正当会式 奉修導師 光隆寺御高職 亀井日魁上人

来る廿六日、午前十時三十分より、御正当会(夏の御会式)が奉修されます。

麻布・光隆寺御高職の亀井日魁上人を奉修導師にお迎えいたします。

亀井御導師は、宗門の要職を歴任され、現在は、宗務本庁教務局長として、教務の指導の先頭に立って活躍中です。さて、我が本門佛立講(現在は佛立宗)をご開講遊ばされた佛立開導日扇聖人は、幕末の江戸時代の京都に於て、御祖師様・日蓮聖人、門祖日隆聖人の教えを学ばれ、すべての人々を救済することのできる、

法華経本門八品所願上行所伝の御題目を信唱することにより、私共凡夫のもつていいる悪い因縁を断る方法をお示し下さいました。

開導聖人は「蓮隆両祖の流れを汲み」と仰せられ、仏祖の教えを固く護り、ご弘通することをお諭しになられました。この開導聖人のおかげを蒙つて日夜、数知れないお計らいを頂いている私達です。夏の御会式・御正当会は、開導聖人への大恩報謝の意義を奉じるかたちで奉修されるのです。今回は、麻布・光隆寺さん

から、奉修導師の随伴参詣として三十名の団参をいただくことになっております。暑い最中ではありませんが、早めに将引をすすめて一人でも多くお参詣できるようにシツカリとご奉公させていただきます。

七月十二日 宗門総回向奉修 於 大本山・宥清寺

来る十二日(日)四座に亘り大本山・宥清寺に於て、御正当会(開導会)が奉修されますが、その折、過日皆さまから申し込みいただいた「宗門総回向」も併修されます。当日は、御講有上人を総導師としてご出座のお教務方と大勢のお参詣者の唱題により盛大に宗門総回向が奉修されます。

本年の夏期参詣は、十二日(日)から、廿五日までの二週間、御正当会の晴天祈願も併せて実施されます。布教区内の交流参詣は、光隆寺さんと扇教寺さんとの二ヶ寺と交流させていただくことになっております。夏期供養の申し込みも。

七月朝参詣強調週間 七月二日〜六日まで 第二連合担当

七月の朝参詣強調週間は、第二連合担当で、日野教区から、京王教区までですが、他教区からのお参詣もお気張り下さい。

七月二日(木) 日野教区
三日(金) 立川教区
四日(土) 大和教区
五日(日) 国立教区
六日(月) 京王教区

日序上人御十七回忌報恩ご奉公
御有志奉納者氏名(その六十七)
(教区順。敬称略。順不同)
二十七年六月十四日現在
合計八五七名、一、六六九口



本月の御妙判 懈怠をつゝしむ

此等の禁しめを背く重罪は、目に見えざれども、積りて地獄に墮つる事、譬へば寒熱の姿、形もなく、眼には見えざれども冬は寒来りて、草木人畜をせめ夏は熱来りて、人畜熱惱せしむるが如くなるべし。

(松野殿御返事)

「此等の禁しめ」というのは懈怠の念を起してはならぬということ。

苟も信心が大事と思うものは、「いのちにかえても之をまもる」のがふつうで、そのためには自分の生命すら惜しくないとはいふ心になるのが、いちばん強い信心ということにな

るわけで、法華経の如来壽量品には、**不自信命**と説かれ、**勸持品**には、**我不愛身命**と説かれ、**但惜無上道**と説かれてあります。御弘通という人を助ける為には、自分の生命さえ惜しくないという御信心にならば、そこに成仏があり、そういう御信心に御利益があるというので、「懈怠の念をおこしてはならぬ」と示されるのであります。

涅槃経には「身軽法重死身弘法」と説かれてあります。このお経文通りの心で日々

の御信心御奉公が出来ればよいのですが、とかく凡夫の信心は自ら戒めていないと形どまりやっつけていても御本意に背くようなことになり、気の弛みというか、心が散りやすいので「懈怠の心を起さぬ」というのであります。

「霜ヲ履ミテ堅氷来ル」という語があります。霜がふりはじめたと思ふと、すぐ氷の張るような厳寒がやってくるので、常に油断なくしていかないといけないのであります。

「信徒の中の謗法は懈怠なり。懈怠を責め合ふを当講繁栄の基本となす。いかに御法門を知りたりとて、懈怠を責めぬ人は悪人も。御弘通を思はぬ人も。其懈怠は友によりて起ることあり。我心より起ることあり。欲の深きと、信心に勝つ故に、此人は御弘通の思ひなく、迷ひ第一とする人なり。責むべし。」(開化十)

と、御指南下されてあり、御信心に油断があると、先づ、自分の信心が怠り勝ちになり、

更に、他の謗法、懈怠をみても折伏をしないようになるといふので、「日頃の御信心は懈怠なく」といふことを信条としてつとめなければなりません。寒くなつて、霜が降りたナ、と思つて居るうちに、たちまち堅い氷の張るような厳しい寒さがやってくるのも事実です。「一期ヲスグルコト程ナシ」で、うっかり油断しているとズルズル懈怠して、取り返さず、のつかない事になるといふ事を考えて、ゆるみなく精進させて頂くことが、肝心です。

自分の信心が怠り勝ちになり、